

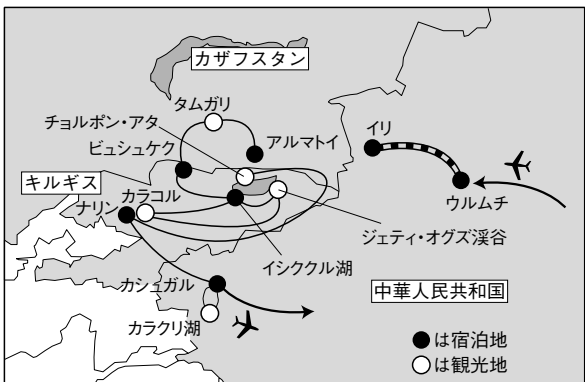
# 会員の広場



## 天山北路 国境を超える旅

高田 英生（東京）

昨夏、ウルムチから天山北路をカザフスタン、キルギスまで抜け、そこから南へ天山山脈の峠を越えカシユガルまで旅をした。四千m〜六千m級の山々が連なる天山山脈は、多くの支脈を従えながら、東のトルファンからカザフ・キルギスまで二千五百kmにわたる。その冠雪と氷河は、降水の非常に少ない山麓のオアシスや河川を潤し遊牧の民を育ててきた。古来より、山懐の草原には牧畜を



主要な生業とする人々が暮らし、交易や政治・宗教的野心に導かれた人々が天山の峠を越えて行き来した。

近年まで訪れる人は限られていたが、NHKの特番を始めとして観光地や風物が紹介されることも多くなり、古来よりの歴史の一杯詰まった風土を是非歩いてみたい参加した。今回のツアーの同行者は皆さん旅行経験が豊かな方々ばかり。チベットは四回、このツアー訪問地であるキルギス・イシククル湖、パミール高原・カラクリ湖は二回目、さらに玄奘三蔵の足跡を辿って今回が目標達成の旅という方もいた。

カザフ、キルギスの現地ガイドをして頂いた方は日本に留学していた。遠目では日本人かと思っただ。民族も宗教も長く交雑してきたこの地域で、市場でのキムチ売り（韓国人）と山間渓谷の景勝地で蜂蜜を売りに近寄ってきた女性（ロシア人）たちには、諸民族の歴史を妙に実感した。

ツアーのキャッチフレーズには「：草原の

道 陸路での国境越えが三回！」とあり、天山山麓のウルムチから天山北路の要衝イリまで鉄道で、そこからは貸し切りバスを乗り継いで、国境を三回超えることになる。

近時、陸路でも国境を意識せずに通過するところも少なくないなか、この旅行では思い切り国境を意識させられた。中国からの出入りに際して、国境の管理事務所・税関を抜けるまで、スーツケースは解錠・点検、カメラ、スマホは撮影記録を開示させられ、旅行ガイドブックが没収された人もいた。時にバスに乗り込んで、旅券の提示を求められた。カシユガルからパミール高原を経てパキスタンはるか手前で検問を受けた。

今回は、天山山脈またその支脈の山々を常に望みながらの旅であったが、その実、キルギス・中国国境にある最高峰ポペータ山七四三九m（故田部井淳子が一九九九年雪崩に襲われながらも登頂した）は前山の彼方で遠望すらできなかつた。